

ATP

CREDIT (敬称略・順不同)

◆審査委員会

審査委員長 荻原 伸之 (ジッピー・プロダクション)

ドキュメンタリー部門 審査委員

池田 一葵 (テレビマンユニオン)

奥村 健太 (メディア・ワン)

合津 貴雄 (東京ビデオセンター)

情報・バラエティ部門 審査委員

阿部 裕太 (テレビ朝日映像)

大澤 宏一郎 (太陽カンパニー)

萩原 朋子 (IVS テレビ制作)

ドラマ部門 審査委員

井上 竜太 (ホリプロ)

清水 真由美 (メディアミックス・ジャパン)

唯野 友歩 (AOI Pro.)

◆新人賞

審査委員長 山本 妙 (パオネットワーク)

審査委員 柳田 香帆 (テムジン)

野中 翔太 (AX-ON)

竹田 爽輝 (えすと)

天宮 沙恵子 (TBS スパークル)

◆総務大臣賞

審査委員長 浜野 高宏 (GV Tokyo)

審査委員 大場 吾郎 (佛教大学社会学部)

金川 雄策 (LINE ヤフー)

品田 英雄 (日経 BP)

千野 成子 (Empire of Arkadia)

Eric Nyari ((米国) シネリック社

/シネリック・クリエイティブ)

第41回 ATP 賞テレビグランプリ受賞式

2025 年 7 月 24 日 (木)

東京プリンスホテル 2F プロビデンスホール

司会・進行

二宮 直輝 (NHK)

水原 恵理 (テレビ東京)

主催

一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

後援

総務省、経済産業省、

日本放送協会、日本民間放送連盟



ATP

創り手が選ぶ

創り手のための賞!

2025

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM
PRODUCTION COMPANIES
AWARD

ATP
AWARD

THE 41ST
GRAND PRIX

NHK スペシャル
法医学者たちの告白

ビジュアルオフィス・善、
NHK エデュケーショナル/
NHK 総合



グランプリ THE 41ST GRAND PRIX

● ドキュメンタリー部門 ● 最優秀賞

NHKスペシャル 法医学者たちの告白

ビジュアルオフィス・善、NHKエデュケーショナル/
NHK 総合



ディレクター 木寺 一孝(ビジュアルオフィス・善)
制作統括 岩下 宏之(ビジュアルオフィス・善)、
鶴谷 邦顕(NHKエデュケーショナル)、東野 真(NHK)
撮影 桃田 憲春(シバテック)
音声 甲斐 隆幸(シバテック)
編集 渡辺 政男(ビジュアルオフィス・善)
音響効果 細見 浩三
映像技術 白井 克人(ビジュアルオフィス・善)
カラーグレーディング 柏原 正広(ビジュアルオフィス・善)

受賞者コメント

この番組の製作会社であるビジュアルオフィス・善は、福岡に本社を置き、昨夏にATPに加盟させていただきました。それが1年目にグランプリという栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。法医学者というと難事件を解決するスーパーマンというイメージがありますが、取材してみますと非常に弱い立場にあることが分かりました。裁判では検察や弁護士が立てたストーリーに沿って利用されることがある、と言うのです。「法医学者は検察や弁護士の思いのままに証拠を出すドラえもんだと思われる」

「ルミノール反応や死亡推定時刻は実はあいまいで科学とは言えない」「裁判では科学が都合良く編集されてしまう」法医学者の告白は驚きの連続でした。裁判という聖域の真の姿を知ってしまったようで、震えが止まりませんでした。法医学者の皆さんが多大なリスクを背負いながら、それでも社会に伝えたいという思いで取材にご協力いただいたことに、深く敬意を表します。

ディレクター 木寺 一孝(ビジュアルオフィス・善)



講評

「よくこれだけの取材を受けたな」というのが率直な感想だ。海外の事例もきっちりと取材して、合わせ鏡のように、日本の法医学者の独立性がいかに異常なのかを際立たせている手腕も見事。ラスト…歩きシーンのインタビューでの「なんだこの国」の、慟哭とともとれる言葉が胸に刺さり、素晴らしい余韻を残している。製作者、そして取材対象者たちの覚悟を映し撮った作品は、これぞドキュメンタリー！最優秀賞を受賞するにふさわしい傑作である。

奥村 健太

投票者からのコメント抜粋

- ◆知られざる日本の法医学の実態と課題を浮き彫りにした、見ごたえのあるドキュメンタリー。法医学者不足や警察主導の死因究明システムが冤罪を生む可能性を指摘し、国民の意識改革を促す、良質な番組だった。
- ◆法医学者の視点から、裁判制度、検察の闇を浮き彫りにする展開に引き込まれました。抑制の効いた編集も見事。
- ◆法医学という未知のジャンルの専門家への密着が興味深かった。法医学的見解が事件解決や裁判の行方を左右し、時には利用されたりする怖さと苦悩。それでも真実を追求する法医学者たちの信念と高潔さが伝わってきた。
- ◆取材される側も放送する側も、並大抵の覚悟ではないな…と感じた作品。ラスト1分、業界の権威が漏らした「何だこの国って思っています」という嘆きが、法医学者の置かれる“危うい立場”を物語っている。

最優秀賞
THE 41ST BEST AWARD

● 情報・バラエティ部門 ●

ステータス #2 メシア ～究極のストラディバリウス～

〃 Film & Media、NHKエデュケーショナル／NHK 総合



企画・演出・プロデューサー 内田 利元(〃、Film & Media)
ディレクター 牟田 高太郎(ペパーミッツ)
撮影 鈴木 正実(ZOUX) / 照明 高坂 俊秀
音声 赤川 淳(クレイジー・ティヴィ)
編集 前島 健治(ギトリ) / 映像技術 石原 史香(SCENE)
音響効果 井貝 信太郎(Cuevo)
制作統括 寺岡 環(NHK)、鶴谷 邦顕(NHKエデュケーショナル)

受賞者コメント

この度は牟田ディレクターをはじめ、才能溢れる精鋭たちの仕事を評価して頂き、本当にありがとうございます。ステータスを描く番組でATP賞という「ステータス」を頂く…大変喜ばしくも、なにか不思議な心持ちです。なぜこの世に「ステータス」は生まれるのか？そして、なぜ人はこうも魅せられてしまうのか？この番組を通して、人間という斯くも複雑な生き物の素顔を覗けたらと思っています。新作もご期待ください。

企画・演出・プロデューサー 内田 利元(〃、Film & Media)

講評

紀行ドキュメントであり、情報バラエティであり、トーク番組でもある、新しいジャンルの作品！緻密な構成、ロケやスタジオカメラの構図・映像美、アンミカさんのVTRフリ、本編を邪魔しないワイプ、そしてテロップ・ナレーション・選曲まで、すべてが洗練されていた。弦楽器商・中澤創太さん、若き音楽家2人、パトロン・前澤社長のキャスティング。中澤さんが父親と2人で歴史を紐解きながら「メシア」に迫る取材に、グイグイ引き込まれた。同じクリエイターとして、この作品を生み出した「才能」を羨ましく思う。

大澤 宏一郎

最優秀賞
THE 41ST BEST AWARD

● ドラマ部門 ●

プラチナイト木曜ドラマ クラスメイトの女子、全員好きでした

テレパック／読売テレビ



チーフディレクター 綾部 真弥 / セカンドディレクター 田口 桂
サードディレクター 松丸 博孝
プロデューサー 黒沢 淳(テレパック)、東田 陽介(テレパック)
プロデューサー・企画者 矢部 誠人(読売テレビ放送)
チーフプロデューサー 前西 和成(読売テレビ放送)
メイン脚本家 森 ハヤシ(アミューズ)
セカンド脚本家 鈴木 裕那(T-Iプロジェクト)
サード脚本家 武田 雄樹(sacca) / 音楽家 青木 沙也果
原作者 爪 切男

受賞者コメント

企画者のYTV矢部さんを中心として作った、青春のやり直しのよう、大人の責任を果たす場のような、忘れ難い作品です。誰もが「この現場が好きだ」と口を揃えて言ってくれたことは大きな誇りです。そんな本作を高く評価していただけて嬉しいです。多様性の尊重を描いた「クラ好き」はそのテーマ同様にリスペクトに溢れた現場でした。全てのコンテンツが「クラ好き」のように作られることを願っています。「クラ好き」最高。ありがとうございました！

プロデューサー 東田 陽介(テレパック)

講評

ということだろうと興味を惹くタイトル。笑いとヒューマンが絶妙なバランスで存在する、甘酸っぱくも幸せな世界が描かれている。謎解きをベースに、現在と過去を行き来する構成の巧みさ、キャラクター表現の秀逸さ、テンポある展開や編集・音楽まで、視聴者を楽しませようという意気込みが伝わってきた。主演俳優の存在感も、この奇天烈な設定にしっかりと説得力を持たせている。大きな制作費をかけずとも、アイデア勝負で面白いものは創れる——その最もHappyな形を、見事に体現した制作陣に心から敬意を表する。

清水 真由美



Kim Bok Keun
韓国国際ストーリーミングフェスティバル
執行委員長からの投票コメント

思春期の懐かしい記憶と、「バクリが暴かれるかもしれない」という現在の危機が交錯する物語。25年の歳月を経て、友人や家族への愛、仲間との信頼や葛藤が丁寧に描かれている。これは大切な記憶にまつわる物語であり、過去の傷や欠落を乗り越え、前に進む人々の成長の物語でもある。1990年代半ば、中学生だった主人公は、何気ない出来事を通じて忘れていた心のときめきを思い出していく。日本文化が色濃く映る一方、世界中に通じる普遍的なエピソードが展開され、視聴者の共感を呼ぶドラマである。

ドキュメンタリー部門

サンデードキュメンタリー
ツール・ド／BSフジ

吟うピアニスト ～ピアノ少年 成長の記録～



受賞者コメント

2021年秋、初めて高橋吟待くんのご自宅を訪ねたとき、彼が弾いてくれた即興のメロディがいつまでも頭に残り、それがずっと制作の原動力になっていた気がします。かつて子どもだった誰もが経験した成長期。波瀾万丈な人生でなくても、「個人の生活」を静かに見つめることで

興味深いドキュメンタリーを作れるのではないかと思います。制作しました。いつでも心を開いてくださった高橋さんご一家をはじめ、力を注いでくれた制作チームにこの賞を捧げます。

演出・プロデューサー（企画者） 畠山 藍子（ツール・ド）

講評

冒頭、「どこにでもいそう、どこにでもありそうな少年の成長を追った」というナレーションがある。グランドピアノと出会った少年の2年間は、だからこそ普遍的で、特別に感じた。ピアノの音色と共に映し出される里山の景色も、自然の音も、少年の空気を纏って感じられるからこそ、美しい。ヒキの画が多く、気

持ちに任せてズームもしない、それがディレクターの丁寧で静かな目線になっている。あくまで子どもの目線で、小さな気持ちの変化や発見を拾い続けて積み上げられた100分。私たちのすぐそばにいる、名もなき「誰か」と出会える作品が、もっと増えて欲しいという思いもこめて。

池田 一葵

演出・プロデューサー（企画者） 畠山 藍子（ツール・ド）
ディレクター 宮 久乃
制作 樋口 秀平（ツール・ド）、細井 唯子（ツール・ド）
撮影 三好 隆太（レック） / 編集 蔡 宜真（イマジカ）
音効 宮川 亮（NSL）

ドキュメンタリー部門

また あした ～都営 東糀谷六丁目アパートの一年～

プラネタフィルム、NHKエンタープライズ／NHK BSP4K、NHK BS



受賞者コメント

1年以上、大田区の団地に通い、ガラガラ撮り続けた。なにか大きな事件が起こることもなく、1日1日確実に過ぎていく。いつもと同じ場所でいつもと同じ人に会って、いつもと同じ話を聞く。缶コーヒーを奢ってもらったり、飴をもらったり、一緒におしゃべりしながら、

カメラを回し続けた。そんな日々がこんな形で評価されるとは…ありがたい。東糀谷六丁目アパートの皆さま、おめでとうございます。そして、ありがとうございます。

撮影・ディレクター 伊勢 朋矢（プラネタフィルム）

講評

「限界集落化した団地のベンチに集う高齢者たちの井戸端会議」が、なんでこんなに面白いんですか！？妙に噛み合わない会話や、オチの見えないマシンガントークに思わず吹き出してしまう。移ろう四季の風景から聞こえてくる“トホホ節”が、とてつもなく愛おしい。

でも、そこにいつもの仲間が姿を見せない時がやってくる。その時、高齢者たちだけでなく、制作チームに走る動揺まで取り込んだ、切実で、柔らかで、丹念な演出に、ひたすら圧倒されました。

合津 貴雄

語り 倍賞 千恵子（チエコオフィス）
撮影・ディレクター 伊勢 朋矢（プラネタフィルム）
編集 松本 哲夫（映像プロ） / 音声 永峯 康弘
音響効果 金田 智子 / プロデューサー 伊藤 純（オフィスJ）
制作統括 太田 宏一（NHKエンタープライズ）、新延 明（NHK）

情報・バラエティ部門

アート音痴で悪いか？！

IVSテレビ制作／フジテレビ



受賞者コメント

“音痴”という言葉ポジティブに捉え、「難解」「敷居が高い」と思われがちな“アートの世界”を知識ゼロでも学べる番組として形にできたこと、そしてそれを評価いただけたこと嬉しく思います。番組内で取り上げたアーティストは映像や写真がない時代の人物。当時をどう描くかが課題でした。AIや漫画を活

用することで現代的で、“音痴”でもわかりやすい表現を生むことができました。この機会に“アート”をより身近に感じていただくと幸いです。

ディレクター 稲毛 良（IVSテレビ制作）

講評

数々の有名アートが登場し、アートの指南書のような番組かと想像していたら、絶妙な流れでルソーの半生へと進んでいく。その秀逸な構成とルソーのユニークな人となりのおかげで、決して知名度が高いとは言えない画家のストーリーに、どんどん引き込まれていっ

た。ルソーのコミカルな部分を抜粋し、描いているので、相当量の資料を読み込んだ上での台本なのだと思う。制作者の読書量に脱帽。時間をかけることの意義を感じられる番組だった。

萩原 朋子

企画 長尾 忠彦（IVSテレビ制作）
演出 中根 三美（IVSテレビ制作）
ディレクター 稲毛 良（IVSテレビ制作）
プロデューサー 川上 修（IVSテレビ制作）

情報・バラエティ部門

The Boyfriend

共同テレビジョン／Netflix



受賞者コメント

なんて美しい世界なんだ。その一言に尽きます。これは、単なる恋愛リアリティーショーという枠を超えた、濃密な“人間ドラマ”でした。架空の物語ではなく、彼らは現実そこに生きていたのです。編集をしながら、泣いて、笑って、苦しんで…「切り取ってしまうのは

もったいない」そんな思いと、日々戦っていました。演出家として、幸せな時間を過ごせました。ありがとう、BOYS！この世界が永遠に続きますように。

総合演出 吉村 慶介（共同テレビジョン）

講評

本作の一番の魅力は、全体に流れる「穏やかで優しい空気」だ。彼らの丁寧な日常が織りなすドラマは、これまでのリアリティーショーで多く見られた「粘着質なメロドラマ」とは一線を画す。Boysを通じ、様々な社会課題を提示する本作。彼らの声、「何でこんな風に生まれ

てきちゃったんだろう？」は、特に胸を打つ。そして何より、日本においてLGBTQをテーマにしたリアリティーショーとしては先駆的な作品であり、その挑戦と意義に最大限の敬意を表したい。

阿部 裕太

エグゼクティブプロデューサー 太田 大（Netflix）
チーフプロデューサー・演出 菱田 啓介（共同テレビジョン）
キャスティング・プロデューサー Taiki（OfficeBriller） / 総合演出 吉村 慶介（共同テレビジョン）
ディレクター 工藤 和彦、長山 孝太郎（ビボーテ）、吉田 莉穂（共同テレビジョン）
ポストプロスーバイザー 菊池 貴也（共同テレビジョン）

発見!仰天!!プレミアもん!!! 土曜はダメよ!

レジスタエックスワン/読売テレビ



受賞者コメント

優秀賞大変光栄です。土曜はダメよ!は今年で22年。数多くのコーナーがあり、どれも一般の方に支えられている番組だと思います。受賞した「肴(あて)クイズ」も素敵な居酒屋とお客さんに恵まれ楽しいVTRになりました。さらに、スタジオの出演者の方々が恐ろしく盛り上げてくれた賜物だと思っています。土ダメに関わっているスタッフ、出演者の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

ディレクター 吉田 光希
(レジスタエックスワン)

講評

嫉妬している。この番組を土曜の夕方に晩酌をしながら見る関西の視聴者に。「全然知らん人が何食べるかななんてわからない!」序盤のフット岩尾氏の発言は、まったくその通りだ。居酒屋を舞台にした無理目の謎解きゲーム。しかし、メニューを片手に推理を重ねていく

と…不思議と解けてくるから面白い。個性的な店主や常連を、手練れの関西芸人が盛り上げるこのコーナー。「東京では作れないな…」と、改めて嫉妬した。

阿部 裕太

チーフプロデューサー 高橋 宏輔(読売テレビ放送)
演出 橋 庸介(レジスタエックスワン)
ディレクター 吉田 光希(レジスタエックスワン)

ドラマ10「東京サラダボウル」

NHKエンタープライズ/NHK 総合、NHK BSP4K



受賞者コメント

今、小学生の我が子の周りは、外国にルーツを持つ子どもたちが増えています。同じ国に暮らす者同士、違いを理解し尊重し合える未来であって欲しいと願い、この企画を始めました。ドラマで叶えられることはわずかです。しかし、わずかな雫が葉を芽吹かせるように、小

さな感動は良い未来を育てると信じています。「東京サラダボウル」という挑戦に真剣に向き合った全てのキャスト・スタッフに拍手を贈ります。ありがとうございます。

制作統括 家富 未央
(NHKエンタープライズ)

講評

まさに、“今”を描く、プロが作ったドラマ。一見、軽やかに見えるが、配役・脚本・演技・演出…巧みに計算された本作に魅了された。いつまでも、この世界に没入していたいと思った。奈緒さん演じる鴻田、松田龍平さん演じる有木野をはじめ、登場人物は皆、かつて観たこ

とがないキャラクターなのに、なぜか昔から知っているような、また会いたくなる愛すべき人たちだった。だから、このドラマが大好きです。

井上 竜太

原作 黒丸 / 脚本 金沢 知樹
演出(チーフ) 津田 温子(NHKエンタープライズ)
演出 川井 隼人、水元 泰嗣
プロデューサー 中川 聡子 / 制作統括 家富 未央(NHKエンタープライズ)



特集ドラマ 母の待つ里

テレビマンユニオン/NHK BSP4K



受賞者コメント

「遠野」で1か月間の撮影を行いました。演出のこだわりで、築200年を超える本物の「曲がり屋」で撮影をするためです。足を踏み入れた瞬間、“母”役の宮本信子さんが美術スタッフに拍手を送ってくださいました。「ちよがどんな風に暮らしているのかわかる」と。舞台となるのは「1泊50万円で過ごす“偽り”の実

家」です。“嘘”が“誠”になっていく様子を目の前で体験しました。是非、みなさまにもご覧いただけましたら幸いです。この度はありがとうございました。

制作統括 高城 朝子
(テレビマンユニオン)

講評

あまりにも素晴らしいお芝居、あくなき想いを重ね違いをつくる妻傭のスタッフ、理論的でありながらもエモーショナルな脚本、それらをひとつの作品にまとめあげる監督の手腕。本作は、大きな掛け算に目が行きがちだが、小さな足し算にこそ圧倒される。真摯に作

品に向き合い、心血を注ぐからこそ、ただならぬ。プロの技、そしてプロの業が詰まった本作は、産みの苦しみと、つくるよろこびに充ち溢れた、唯一無二の我々が見習うべき作品だ。

唯野 友歩

原作 浅田 次郎 / 脚本 一色 伸幸 /
企画・ディレクター 阿部 修英 / ディレクター 森 義隆(テレビマンユニオン)
撮影 柳島 克巳 / プロデューサー 石井 永二(テレビマンユニオン)
制作統括 高城 朝子(テレビマンユニオン)、訓覇 圭(NHK)



総務省情報流通行政局長の豊嶋基暢様にご祝辞をいただきました。



NHK専務理事・メディア総局長の山名啓雄様にご祝辞をいただきました。



民放連会長の早河洋様にご祝辞をいただきました。



ATP福浦与一理事長の主催者挨拶。いよいよ開幕です!



韓国国際ストーリーミング・フェスティバル執行委員長のKim Bok Keun様にお越しいただきました。



今年の司会は二宮直輝アナ(NHK)と水原恵理アナ(テレビ東京)

奨励賞

INCENTIVE AWARD



ディレクター	金 聖雄(Kimoon Film)
取材	松井 一恵(Kimoon Film)
制作統括	太田 宏一(NHKエンタープライズ)
	東野 真(NHK)
撮影	池田 俊己(映像グループ翔の会)
編集	野村 太

ドキュメンタリー部門	ETV特集 巖とひで子 ～袴田事件58年後の無罪～ Kimoon Film、NHKエンタープライズ／NHK Eテレ
------------	---

受賞者コメント

2024年10月、袴田巖さんの無罪確定を祝う会を撮影に行った。「WBC名誉チャンピオン袴田巖～」とコールされると姉のひで子さんと一緒に車椅子で登場した巖さんは観衆に手を挙げ、応えて見せた。流れているのはロッキーのテーマ曲。このちょっと気恥ずかしい演出に目頭が熱くなった。10年撮影を続けてきて無罪確定の瞬間に立ち会えたことを誇りに思う。奨励賞をエールと受けとめ、さらにがんばりたい。

ディレクター 金 聖雄
(Kimoon Film)

講評

取材相手に寄り添えたとしても、気持ちの全てを理解するのは難しい。見つめる覚悟と、見つめた責任は、ドキュメンタリーにはついて回る。冤罪事件の先で、袴田巖さんとひで子さんの続いていく人生を10年間追いかけることには、あらゆる体力が必要だったと思う。裁判の裏で日常を取り戻そうとするふたりの日々には、笑いもある。どうにもならないこともある。決して遠くない、隣人のようだった。ふたりとの関係性が、心地よく心に残るシーンがたくさんあった。ニュースは、いつか忘れられるかもしれない。でも、この番組に触れた人は、きっとふたりのことを忘れられない。

池田 一葵

はるかなる古代文明

AIで謎に迫る！ナスカの地上絵

アマゾンラテルナ、NHKエンタープライズ／NHK BSP4K、NHK BS

受賞者コメント

小学生のとき読んだ「世界のふしぎ」的な本で、ナスカの地上絵に衝撃を受けました。いつ誰がどうやって、何のために描いたのか。んー、知りたい。それから数十年たった2019年、地上絵の謎の解明に取り組む研究者と出会いました。「絵の数が多すぎて自分の寿命の中で解明するのは無理だと思っていたら、AIが登場したので間に合いそうだ」と彼。んー、面白い。そしてこのほど、彼は謎の真相をほぼ突き止めることに成功しました。

制作統括・企画 村中 祐一
(アマゾンラテルナ)



制作統括・企画	村中 祐一(アマゾンラテルナ)
制作統括	浜田 裕造(NHK)
	紙屋 聡(NHKエンタープライズ)
プロデューサー	武井 美穂(アマゾンラテルナ)
チーフディレクター	関 肇伸 (アマゾンラテルナ)
ディレクター	上嶋 祐紀(アマゾンラテルナ)
アシスタントディレクター	寺内 華 (アマゾンラテルナ)



制作統括	津田 恭司(NHK)
	佐藤 知樹(クリエイティブネクスス)
ディレクター	新宮 通彰 (クリエイティブネクスス)
撮影	小野塚 正直(スパイラルビジョン)
音声	新橋 宣彦(TOTONOE FORCE)
映像技術	有田 徹二(ウインクツー)
音響効果	井貝 信太郎(Cuevo)

ヒマラヤの“青き山”へ ～ニルギリ 未踏ルートに挑む～

クリエイティブネクスス／NHK BSP4K、NHK BS

受賞者コメント

三戸呂さんと青木さん、2人の挑戦を通して「強い人とは？」「優しい人とは？」ということが伝えられたのではないかと感じています。制作スタッフは、日本の山番組でお世話になっている方々で構成し、個人的には「日本でやってきたことがヒマラヤで通用するのか？」という挑戦でもありました。賞を頂き、この上なく光栄です。関わった全ての皆様に感謝を申し上げます。これからも皆で山を歩き、良い番組が作れるよう精進に励みます。

ディレクター 新宮 通彰
(クリエイティブネクスス)

講評

「下りよっか」…こんなにも悲しく、しかし力強い言葉が、かつてあっただろうか。最後は、「なんだかんだ言っても登頂できるんでしょ？」というテレビ屋の浅はかな考えを打ち砕く、まさかの結末——！エンディングに至るまでの手に汗握る時間は、見たことのない絶景に胸が高鳴るとともに、青木＆三戸呂、2人のクライマーのパディものとしても、困難に対し経験と友情を武器に乗り越えていくさまは、人間ドラマとしても秀逸であった。

奥村 健太



ディレクター	二宮 寛子(ドキュメンタリージャパン)
プロデューサー	原田 由香里 (NHKエンタープライズ)
制作統括	安田 慎(NHK)
	煙草谷 有希子 (ドキュメンタリージャパン)
取材	宮崎 和也(ドキュメンタリージャパン)
撮影	門脇 妙子
音声	深野 千穂(アビス)
編集	鈴尾 啓太 / 音響効果 金田 智子



プロデューサー	片山 健太(関西テレビ放送)
	澤田 和平(共同テレビジョン)
演出	吉川 亮太(メディアプルボ)
ディレクター	井関 雅之(メディアプルボ)
	松澤 祐介(共同テレビジョン)
	稲垣 知宏、西田 詠一
	田端 裕一、吉村 直暢
	井村 祥大(メディアプルボ)
	木村 琢人(共同テレビジョン)
	小八木 敬三



ディレクター	日置 和哉(カイエン)
	玉井 裕輔(カイエン)
演出	小山 正秀(カイエン)
プロデューサー	福本 悠(クレイジー・ティビィ)
制作統括	佐々木 健一(NHKエデュケーショナル)
	柳沢 晋二(NHK)

BSスペシャル 告発 ～コソボ 性暴力サバイバーたちの25年～

ドキュメンタリージャパン、NHKエンタープライズ／NHK BS (国際共同制作 NHK、コソボ公共放送RTK)

受賞者コメント

戦争で肉親を殺され、性暴力にあい、平和になっても被害を誰にも言えず、ばれたら家族に殺されるかもしれない。深い傷を負ったコソボのサバイバーたち。撮影中にあるサバイバーが「うれしい」とぼつりつぶやいたのが印象的でした。配慮を装って「なかったことにする」ということが、彼らにとって一番の悪夢なわけです。トラウマと闘いながらも、多くの人に知ってほしいと取材を受けてくださったサバイバーの皆さんと、制作にご尽力いただいた全ての方に感謝します。

ディレクター 二宮 寛子
(ドキュメンタリージャパン)

池田 一葵

講評

性暴力の被害者を、被害から生き抜いたという意味をこめて「サバイバー」と呼ぶ。その出来事の先に、彼・彼女たちの人生は続いていることを、改めて感じさせられた。当事者たちが表舞台で自分の身に起きたことを語ること、またそれを取材することは、世の中を変えるため、性暴力の問題を他者に知らせるために必要なことだと思う。でも、彼・彼女たち本人にとって、それはプラスになることなのだろうか。ふと、そう考えてしまう。その重責を感じながらも、サバイバーたちと向き合い、取材することの一つ一つを決断していくディレクターを、心から尊敬する。

ヘタコイ ～男の笑える恋愛失敗談～

共同テレビジョン、メディアプルボ／関西テレビ、フジテレビ系列全国ネット

受賞者コメント

この度は、素晴らしい賞を頂き誠にありがとうございます。まずは、自らの恥ずかしい部分である【気になる女性に振られた瞬間】をさらけ出してくれた男性陣の皆さま、本当にありがとうございました！皆さまの勇気が、全国の方々に勇気を与えてくれたと勝手に信じております！そして、トラウマ級の【駄男師たち】を明るく語ってくださった女性陣の皆さま、本当にありがとうございました！これからも下手恋を撲滅できるように番組制作に邁進いたします。

プロデューサー 澤田 和平
(共同テレビジョン)

阿部 裕太

弾丸!空港トンボがえりツアー

スコットランド・バラ空港

クレイジー・ティビィ、カイエン、NHKエデュケーショナル／NHK BS

受賞者コメント

この場をお借りして、空港だけを徹底的に味わい尽くすという無謀な挑戦にご協力いただいたすべての方々、そしてスコットランド・バラ空港の皆さまに心より感謝申し上げます。広大な干潮の砂浜を利用した滑走路、島の食材を活かした地元グルメ、そして、空港を利用する人々との出会い、まさに空港は、その国や地域を映す鏡でした。空港には、まだまだ私たちが知らない面白さが詰まっています！！

演出 小山 正秀
(カイエン)

講評

見られないものを見せてくれる、本来のテレビの在り方を体現した番組。海岸が滑走路になっているスコットランド・バラ島にあるユニークな空港を舞台に、番組独自のルールで、空港から一歩も出ずトンボ返りする弾丸ツアー。絶対に経験しないであろう旅の疑似体験をさせてくれるところが最大の魅力。海岸に離着陸する飛行機や、空港で潮干狩りができるなど、未知の情報でワクワクさせてくれた。夕食をとる際、自らのルールを破って外出してしまうのもご愛嬌で、微笑ましかった。

萩原 朋子

INCENTIVE AWARD



企画・プロデューサー 田中 直人
(テレビマンユニオン)
プロデューサー 三毛 かりん
(テレビマンユニオン)
ディレクター 浅野 直広(テレビマンユニオン)
佐藤 優衣(テレビマンユニオン)
宮本 愛里(テレビマンユニオン)
制作統括 寺西 浩太郎(NHK)

解剖！マスターピース ～葛飾北斎『神奈川冲浪裏』～
テレビマンユニオン／NHK BS

受賞者コメント

73億歳でもまだ現場で遊んでいます。それだけでもうれしいのに、若い仲間が2人も新人賞とは喜び倍増。そしてこの「解剖！マスターピース」です。ものすごい競争率をくぐり抜けて採用され、バッテリーズさんもスタッフもみんな手探りで突貫工事。こんな賞をいただけてまさにめでたさ3段重ねです。(ついでに、始めたばかりのアーチェリーで間違って優勝したのも超ラッキー。)この番組まだまだ続きます。ありがとうございました。

企画・プロデューサー 田中 直人
(テレビマンユニオン)

講評

バッテリーズの漫才から始まる斬新な構成に目を見張る。3万点ある北斎の作品の中から選挙を経て、「神奈川冲浪裏」をマスターピースに選出。誰もが一度は目にしたことがあるこの作品を、専門家や識者など「見る人の視点」に寄せた多様な解釈で浮き彫りにしていく取材は、まるで一緒に解剖する一員になったような感覚を覚えた。難しく説明しがちな美術番組が、漫才師・歌舞伎役者・レゴビルダー・漫画家など多様なキャスティングと最新技術を駆使することで、身近でわかりやすい番組に仕上がっている。

大澤 宏一郎



制作統括 橋立 聖史(ランプ)
神林 伸太郎(NHKエンタープライズ)
渡辺 悟(NHK)
演出(チーフ) 吉川 久岳(ランプ)
演出 一色 隆司(NHKエンタープライズ)
演出 山下 和徳 / 原作 伊与 原 新
脚本 澤井 香織

ドラマ10 宙わたる教室
NHKエンタープライズ、ランプ／NHK 総合

受賞者コメント

「夜の小さな教室のささやかな実験がはるか宇宙にまでつながっている」そんな夢のような出来事が本当にあったとは、伊与原さんの素敵な原作に出会うまで知りませんでした。脚本の澤井さんが書いてくれた「失敗なんてありえません。まだ誰もやったことがないからです」というセリフを胸に、失敗を恐れず、新しいことに挑戦していきたいと思います。科学部を見守ってくれた「チーム宙わた」の皆さま、本当にありがとうございました。

制作統括 橋立 聖史
(ランプ)

唯野 友歩

講評

ドラマは視聴者に擬似的な体験(本物の体験と言ってもいい)を与えられるものだが、体験そのものを描くのは非常に難しく茶番になりがちだ。しかし本作では登場人物たちを丁寧に見つめることで、血は通い、なにものにも代えがたい充足した瞬間を描くことに成功する。勉学は体験であり、青春もまた同じく。誰であれ、どこであれ、はじめるための決意が成れば、その意志は教室に火星重力下でのランパートクリエイターを再現する。



演出 中江 和仁(culB_A)
脚本 大山 淳子
企画プロデューサー 高明希(AX-ON)
制作統括 阿利 極(AX-ON)
樋口 俊一(NHK)
プロデューサー 齋藤 大輔
久保田 傑(オフィス・シロウズ)

土曜ドラマ Shrink ～精神科医ヨワイ～
AX-ON、オフィス・シロウズ／NHK 総合、NHK BSP4K

受賞者コメント

毎年自殺者が増えると言われる夏休み明け。そんな心の悩みを解決できないまま苦しい思いをしている人、周りの方の“心”にまっすぐ届けるドラマです。今回、このような賞を頂いた事を大変嬉しく思うと共にこのドラマや原作に触れて頂き少しでも多くの心に届けばいいなと思います。そして今回関わって頂いたキャスト・スタッフ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

「全ての人が気軽に精神科にかかる日が来ますように」
——弱井先生の言葉より。

制作統括 阿利 極
(AX-ON)

講評

様々な不安感に覆われる現代において、精神科医療を正面から描いたことは意義深い。特筆すべきは、主人公の医師も看護師も心に傷を負っている点。患者に寄り添うことで、自分たちもまた生かされている。傷を持たない人間はいない。生かし合うことで前に進んでいけるのだということを、三話という短い尺のなかで多角的に丁寧に描いている。俳優たちの特質を生かしたキャラクターづくりが作品を明るく穏やかなものにしており、観る者に癒しを届けている点も好感が持てた。

清水 真由美



原作・監修 沖田 臥竜
総監督 逢坂 元(BABEL LABEL)
監督 林田 浩川(BABEL LABEL)
川井 隼人
脚本 酒井 雅秋(MA Field)
澤口 明宏(BABEL LABEL)
主題歌 B'z (VERMILLION RECORDS)
企画・プロデュース 藤井 道人
(BABEL LABEL)
プロデューサー 古賀 吉彦(AbemaTV)
中村 好佑(AbemaTV)
角田 道明(Lat-Lon)
音楽 堤 裕介

インフォーマ 闇を生きる獣たち
Lat-Lon／ABEMA

受賞者コメント

原作の沖田臥竜先生から「暑い夏にしよう!」というお言葉を頂き、文字通り、灼熱の地バンコクにてロケを敢行致しました。慣れない土地での撮影で悪戦苦闘しながらも、前作から培ったスタッフ、キャストのチームワークで無事、撮影を乗り切ることが出来ました。桐谷健太さん、逢坂監督、支えて頂いたAbemaの皆様、本当におめでとうございます!今後もこの賞を励みに、アジアを代表する作品を生み出せるよう尽力して参りたいと思います!

プロデューサー 角田 道明
(Lat-Lon)

講評

圧倒的な熱量が画面から伝わってきた。世界基準のクライムアクションを目指し、制作者・出演者が限界まで挑んだ気迫。昨今、韓国ドラマに後塵を拝していると嘆く輩もいるが、この作品は、そんなことを言わせない作り手の矜持を感じさせ、未来を感じた。今作のタイ編に続き、チーム“インフォーマ”が世界中で暴れるのを、ぜひ観てみたい。必ず、彼らは今作を超えてくると思うから。

井上 竜太



演出 岩田 和行(共同テレビジョン)
城宝 秀則(共同テレビジョン)
小林 義則(共同テレビジョン)
プロデューサー 橋本 美美(共同テレビジョン)
編成 杉田 彩佳(TBSテレビ)
脚本 いずみ 吉紘(sacca)、神田 優(sacca)
福田 晶平
原作 早見 和真

笑うマトリョーシカ
共同テレビジョン／TBS

受賞者コメント

映像化には難易度が高いと言われた早見和真先生の「笑うマトリョーシカ」。この傑作小説に惚れ込んだ岩田監督がある日とんでもなく分厚い企画書を書き上げてきました。その熱意が全ての始まりでした。そして素敵なキャストとスタッフが集結してくださり、TBS金曜ドラマという伝統ある枠で世に送り出すことができました。さらに賞までいただき、携わってくださった全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました!

プロデューサー 橋本 美美
(共同テレビジョン)

講評

「本当の自分とは何者か?」という課題から導かれるテーマは「ありのままであること」を肯定的に語り受容れ締められることが多い。アルカイック・スマイルの心無い男のそれそのものさえも「ありのまま」と定義づける本作はこれまで溢れ続けた人格を肯定し多様性の時代にまた新たな価値観を与える。人は自分が見たいようにしか見るができない。本作は出演者の見事なお芝居によって様々な登場人物たちが、カリスマをカリスマたらしめていく。

唯野 友歩



最優秀新人賞 & 優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD

企画・ディレクター

久保田 徹

(フリーランス)



BSスペシャル 境界の抵抗者たち
～ミャンマーを追われた映像作家の記録～

NHK BS



企画・ディレクター 久保田 徹
プロデューサー 米本 直樹(、Film & Media)
制作統括 太田 宏一(NHKエンタープライズ)、東野 真 (NHK)
コーディネーター Min Thant Maung
取材 高峰 暖 / 音声 高梨 智史(HIGH PAIR)

受賞者コメント

『境界の抵抗者たち』は、母国ミャンマーの弾圧を逃れ、タイ・ミャンマー国境で生きる人々の物語です。カメラを向けることを許してくれた主人公たち、命懸けで映像を託してくれた人々がいました。軍の弾圧を記録した映像からは、血と硝煙の匂いが立ちのぼってきました。その政治化された映像を、体温の感じられる物語として昇華できるかどうか、私の挑戦でした。私自身、3年前にミャンマーで拘束された経験があるため、主人公たちと近い立場でカメラを回すことができたが、一方で、彼らが背負う喪失や痛みには、私との間に越えられない距離もあることも感じました。そのような意味では、二つの世界の間にいるからこそドキュメンタリーを作る意味がある、日本に生きる私たちに確かに繋がる物語なのだと信じて作りました。このたびの受賞を励みに、より一層、映像の力を信じて励みます。

柳田 香帆

投票者からのコメント抜粋

- ◆ミャンマーのクーデターを題材に、自らも命をかけて取材したジャーナリズムには感銘を受けた。銃の代わりにカメラで戦う映像制作者たちの想いにもまた、心打たれる作品。
- ◆ディレクターがタイ国境で出会ったミャンマーの映像作家やジャーナリストは、命がけで真実を伝える使命感に燃えていた。「愛と平和の無い世界」という彼らの言葉が、ミャンマーの現状を物語る。その強い覚悟が胸に迫る内容だった。
- ◆あまりに理不尽な祖国のクーデターを目撃し記録し続けたミャンマーのジャーナリストたち。久保田ディレクターは番組を制作するにあたり、彼らの映像のどの部分を切り取り、マイクを向けて何を引き出してゆくのか…久保田さんの責任と覚悟が見て取れた作品だった。

講評

あのとき、多くの同業者がニュースにかじりつき、毎日無事を祈り、帰国の知らせに安堵した。当時の苦難は決して他者が想像するものではない。それでも再び“伝える”ことを選んだ久保田ディレクターの勇氣に、心から敬意を表したい。番組内の映像作家たちもまた、使命感と不安のはざまで揺れている。同じ覚悟を持つ者だからこそ、カメラを向けることが許された現場だ。画面の隅々に、「映像の力を信じたい」という想いが宿っていた。

優秀新人賞

EXCELLENCE NEWCOMER AWARD

演出

鳥居 稔太 (テレビマンユニオン)



演出 鳥居 稔太(テレビマンユニオン)
構成 石井 成和 / 編集 宮島 亜紀
撮影 水上 智重子(テレビマンユニオン)
音効 中嶋 尊史
プロデューサー 蜂谷 時紀(テレビマンユニオン)
チーフプロデューサー 西村 陽次郎(フジテレビジョン)

ザ・ノンフィクション ほめる人とほめられる人
～褒めますおじさん 令和の路上物語～

フジテレビ

受賞者コメント

「すごくほめます」とマジックで書かれた段ボール。その目の前をほとんどの人が通り過ぎてゆく中で、自分の心に何か引っ掛かった人だけが足を止める。人を褒めて生きるおじさんと、おじさんに褒められて生きる人々。一

人一人の人生を覗くたび、私の中の常識は破壊されていきました。がむしゃらに通い続け、積み重なった400時間を超える素材は、間違いなく私の青春です。とてもつらく、とても楽しい1年間でした。

講評

おじさんを軸に、褒めてほしい人たちにも密着し、両面から現代の問題や状況を分かりやすく表していたと思います。「褒め」という着眼点が絶妙で、「されたいけどちょっと恥ずかしい。でも褒められたい…その理由は一体？」と、多くの視聴者の興味を引く

良いテーマでした。また、「おじさん」というワードは本来あまりポジティブではないはずが、今回はナレーションに愛情を感じました。そう感じさせたのも、全体構成の良さだったと思います。

野中 翔太

企画・ディレクター・構成・編集

斉藤 彩香 (テレビマンユニオン)



企画・ディレクター・構成・編集 斉藤 彩香(テレビマンユニオン)
撮影 伊藤 加奈子(テレビマンユニオン)
プロデューサー 高城 朝子(テレビマンユニオン)
田中 直人(テレビマンユニオン)
三浦 尚(NHKエデュケーショナル)
浜田 裕造(NHK)

アナザー・ストーリーズ 運命の分岐点
コザ騒動 燃えさかる炎の行方

NHK BS

受賞者コメント

初めてディレクターをした思い入れのある番組で、このような評価をいただき嬉しく思います。出演していただいた4名をはじめ、お世話になった方々に改めて感謝申し上げます。コザ騒動は、ちょうど55年前に起きた戦後沖

縄最大の民衆蜂起です。かつてその炎を向けられた側の“ヤマトンチュ”である私が、沖縄を描いた番組で輝かしい賞をいただいて良いのか複雑な思いもありますが、今後も視聴者の胸に残る番組を作れるよう精進します。

講評

これまで多く取り上げられている題材。「コザ騒動か…」タイトルを見て最初に思ったのは、正直そんな感想だった。しかし、物語が進むうちに、気づけば作品に無我夢中の自分がいた。膨大な取材、そして資料を、見たことのない視点で作品に仕上げていた。その中で、唯一の疑問が浮かぶ——「なぜ歌手の方が作品の本線

にいるのか？」調べてみると、放送日は沖縄戦・終戦の翌日にあたる6月24日。沖縄ではこの日を「うたの日」としているという。構成から放送日まで、すべてが伏線だったのか？3つの視点に「うた」が重なった時、「ああ、見てよかった」と思える満足感に満たされた。

竹田 爽輝

EXCELLENCE NEWCOMER AWARD



脚本 イ・ナウォン
プロデューサー 天宮 沙恵子 (TBSスパークル)
浅野 敦也 (TBSスパークル)
演出 松田 礼人 (TBSスパークル)、坂上 卓哉 (TBSスパークル)
尾本 克宏、賣光 美々佳 (TBSスパークル)

プロデューサー

天宮 沙恵子 (TBSスパークル)

ドラマストリーム 地獄の果てまで連れていく

TBS、Netflix

受賞者コメント

復讐ものが溢れる今、あえてこのジャンルに挑むのは正直、怖さもありました。でもイ・ナウォンさんの脚本があったからこそ、人間の弱さや愛憎をしっかりと描きながら、エン

ターテインメントとして昇華できたのだと思います。佐々木希さん、渋谷風咲さんの新たな表情も、この作品ならではの輝きでした。この出会いと経験に、心から感謝しています。

講評

平日の深夜にこんな刺激を浴びせられたら、寝不足も覚悟するしかない。先の読めない展開、クセになる絶妙なキャスティング、一瞬たりとも飽きさせないテンポ…! 話わずか20分とは思えないほど、濃密な時間が流れていく。気づけば、プロデューサーの巧

みな仕掛けに翻弄されることすら心地よくなっている自分にも気づく。続きが待ち遠しいドラマがあるだけで、日々の楽しみがひとつ増える——そんなささやかな幸せも思い出させてくれた。

柳田 香帆

奨励新人賞



原作 メーブ (講談社)
原作 (作画) 恵 広史 (講談社)
脚本 いずみ 吉紘 (アンドリーム)
音楽 菅野 祐悟 (ワンミュージック)
プロデューサー 藤村 直人 (日本テレビ放送網)
本多 繁勝 (AX-ON)
大庭 佑理 (AX-ON)
演出 佐藤 東弥 (AX-ON)

プロデューサー

大庭 佑理 (AX-ON)

日曜ドラマ 「ACMA:GAME」

日本テレビ

受賞者コメント

この度は賞を頂き大変光栄に思います。この作品は、連続ドラマ・配信・劇場という、プロジェクトとして本当に長い期間を走り抜けてきました。海外ロケを敢行し、最新のテクノロジーを駆使したVFXでスケール感ある作品を作り上げることができたのは、素晴らしいキャストとスタッフの皆様が一丸となってこの作品と向き合ってくくださったおかげです。この作品に携わっていただいたすべての皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

講評

『原作と違う』——SNSやレビューで言いたいように言われる今。いろんなしがらみの中で原作と向き合ったことを、ひしひしと感じた。実際、大庭さんは原作を映像化するまで、「さまざまなゲームと何十時間も向き合い、案を考えた」という裏話を聞くと、その“熱量”、いや……“根性”に、同じ映像をつくる仲間として、尊敬しか覚えない。作者の想いは映像を通して視聴者に伝わり、映画化まで。当時20代の若武者がこの偉業を成し遂げたことを知った際は、嫉妬しました(笑)。

竹田 爽輝

ENCOURAGEMENT NEWCOMER AWARD



企画・ディレクター 小西 遊馬
プロデューサー 米本 直樹 (ハ、Film & Media)
制作統括 大島 隆之 (NHKエンタープライズ)
古屋敷 将司 (NHK)
編集 前島 健治 (ギトリ)
音声 高梨 智史 (HIGH PAIR)
音響効果 金子 愛美 (HIGH PAIR)



企画・ディレクター 廖 可 (テムジン)
撮影 張 華東 / 編集 山田 明子 (ギトリ)
音響効果 越前屋 修 (N S L)
プロデューサー 吉沢 朗 (NHK)
芦立 宏 (NHKグローバルメディアサービス)
小柳 ちひろ (テムジン)



企画・ディレクター 任 心儀 (テムジン)
撮影 朱 玲玉 / 郡山 慎吾 (イデア)
音響効果 越前屋 修 (N S L)
プロデューサー 吉沢 朗 (NHK)
芦立 宏 (NHKグローバルメディアサービス)
小柳 ちひろ (テムジン)

企画・ディレクター

小西 遊馬 (フリーランス)

ETV特集 老人と海獣 ～北海道 積丹 トドと泳ぐ海～

NHK BS

受賞者コメント

「もし、あの時のあの人との出会いがなかったら。あの時のあの景色を見えなかったら。あの優しい匂いを今も知らなかったら。それでも、僕たちはきっと生きてゆくのだろう。けれど、それは同じ人生ということではない。」そんな、いつか知り、恋に落ちるかもしれない出会いのことを想いながら作りました。いつも支えてくださる先輩や友人たちのおかげで賞をいただけたこと、大変誇りに思います。ありがとうございます！

講評

2年にわたる密着取材で、気難しさも併せ持つ老ダイバーの信念と、極寒の海で生きるトドの美しさを、瑞々しい映像で切り取った秀作。藤田さんという一人の人物に、真正面から向き合い続けたディレクターの眼差しには、彼への深い敬意と愛情がにじみ、その思いが画面を通じて、静かに、しかし確かに伝わってきました。自然と人間の共生という重層的なテーマを、感情に寄り添いながら丁寧に掘り下げた、理屈ではなく心に訴える力をもつ作品で、その映像美には、ただただ心を奪われました。

天宮 沙恵子

企画・ディレクター

廖 可 (テムジン)

BSスペシャル 誰が伝統集落を守るのか 中国・雲南省

NHK BS

受賞者コメント

『観光開発』は中国の近代化が持つ複雑な一面を見せました。火災後、ワ族の村は観光客が喜ぶように再建されましたが、生活が良くなることを歓迎する村民もいれば、居場所が奪われ、アイデンティティが失われることを危惧する村民もいました。答えの出ない問いですが、近代化を問い直すこと自体に価値があると信じました。支えてくれたスタッフ、そしてワ族の将来のために信念を持って頑張っている村民たちに、深く感謝いたします。

講評

繊細で、極めて扱いの難しい少数民族文化の問題に、真正面から取り組んだディレクターの姿勢に、心から敬意を表します。厳しい取材環境の中で、多くの当事者から信頼を得て、開発をめぐる村民の分断や、観光会社・行政・研究者といった外部の多様な立場からの思惑まで、異なる声を丁寧にすくい上げている点が非常に印象的で、構成も秀逸。見ごたえのある作品でした。

天宮 沙恵子

企画・ディレクター

任 心儀 (テムジン)

Asia Insight 中国 仮想恋愛に生きる女性たち

NHK BS

受賞者コメント

知られざる“ときめきの世界”にカメラを向けました。そこには、「心の居場所がほしい」「自分を好きになりたい」と願う、誰もが一度は抱いたことのある気持ちが詰まっていました。勇気を出して心の奥にあった悩みを打ち明けてくれた女性たち、支えてくださった制作の皆さんに心から感謝します。見てくれた誰かの心に、小さな優しさや勇気が届いていたら嬉しいです。これからも小さな声と繋がって、映像を通じて大切に伝えていきます。

講評

乙女ゲームが心を癒してくれたり、勇気をくれる一方で、心の拠りどころとして存在しているはずの仮想恋愛によって、逆にSNSでの誹謗中傷や家族との衝突が生まれているという、現実と仮想の間にある複雑な心情と、リアルな中国の状況について深く密着できていたと思います。堅苦しくなく視聴しやすい切り口から入りつつ、そこから今の中国の人々や経済を知ることができる構成になっており、ドキュメンタリーとしてとても巧さを感じました。

野中 翔太

特別賞

SPECIAL PRIZE

関口 宏（司会者、タレント、俳優、ニュースキャスター）



関口宏氏にご登壇いただきました。



関口 宏

受賞者コメント

この度は素敵な賞を、有難うございました。本人はただ、好きなテレビの仕事をして来ただけの事なのですが…気がついたら60年。テレビ人生の還暦を過ぎていました。無限の可能性を秘めたテレビ。まだ分らぬことばかりですが、少なくともテレビとは、そこに集う人々の想いの結果です。力を合わせて素晴らしい番組を創りましょう。

贈賞理由

長年にわたり卓越した司会力を発揮され、報道、バラエティ番組を通じて視聴者に深い影響を与えてこられました。特に「サンデーモーニング」においては、報道の新たな形を築き、長年にわたり視聴者の信頼を得てこられました。ここにその功績を称え特別賞を贈呈いたします。

「くいしん坊！万才」制作チーム



11代目くいしん坊 松岡修造氏にもご登壇いただきました。



受賞者コメント

ミニ番組にもかかわらず、大変光栄な賞をいただきありがとうございます。50年前「おぎゃ〜」と生まれた子どもが50歳になる、そんな長い歳月をチームくいしん坊は共に過ごしてきました。今回の受賞は歴代のくいしん坊たち、歴代のスタッフたちの誇りです。そして、一社提供で支えていただき共に歩んできたキッコーマン、ならびに電通、フジテレビの関係者の皆様と共に「チームくいしん坊」で喜びを分かち合いたいと思います。

プロデューサー兼ディレクター 松澤 祐介
（共同テレビジョン）

贈賞理由

1975年の放送開始以来「放送回数6595回」。半世紀にわたり日本の食文化を深く掘り下げ、多くの視聴者に食の喜びと人との出会いの楽しさを届け、現在のグルメ番組の礎を築いてこられました。その功績に敬意を表し特別賞を贈呈いたします。

NHK 放送100年プロジェクト



NHKより薬子真帆アナウンサー、大河ドラマ「べらぼう」より染谷将太氏にもご登壇いただきました。



受賞者コメント

「これまでの100年、テレビを見て頂いたことに感謝するとともに、これからの100年にもテレビに期待して欲しい」という思いで進めてきた放送100年プロジェクト。節目となる3月には、集中編成をしてスペシャルコンテンツを多数、送り出すことができました。このたびの受賞は、これまでに築いてきた膨大なアーカイブスへの再評価、そして未来のテレビに贈られたエールだと受け止めています。プロジェクトを進めてきて感じたのは「テレビは、まだまだ捨てたもんじゃない」ということ。今後も、放送文化の未来に光をともしよう、残りの100年イヤーを駆け抜けたいと思っています。

エグゼクティブディレクター 板垣 淑子
（放送100年事務局）

贈賞理由

日本での放送開始から100年目を迎えた2025年、放送文化の軌跡と未来を映し出す優れた企画として放送100年の節目に多彩な番組史を再構築し、テレビ文化の継承と未来への示唆など多大なる貢献に敬意を表し特別賞を贈呈いたします。

総務大臣賞

MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND
COMMUNICATIONS AWARDNHKスペシャル
臨界世界
-ON THE EDGE-
中国のハゲタカたち

テムジン、NHKエデュケーショナル／NHK 総合

受賞者コメント

不動産バブル崩壊で経済が落ち込んでいると言われる中国。その渦中で人々はどう生きているのか。難しい現場にカメラが入り込めたのは、若きディレクターたちの粘り強い努力の成果です。一癖も二癖もある人物たちの生々しい言葉から伝わる中国は、どんな姿でしょう？中国は矛盾に満ちた国ですが、人間から感じるの、底知れない可能性と力強さです。私たちは、そんな中国を今後も伝えていきます。光栄な賞を賜り、感謝申し上げます。

制作統括 鐘川 崇仁(テムジン)

講評

ドラマ・ドキュメンタリー・情報バラエティの中から選考する総務大臣賞は、様々な海外展開の可能性を議論する必要があり、毎回議論が白熱します。今回選考した「臨界世界-ON THE EDGE-中国のハゲタカたち」には海外で評価される強さや個性がありました。通常は撮影不可能なプライベート空間での映像収録を実施、登場人物の会話を最大限活用して映像と音声で見せ続け、作品全体に緊張感を与える個性的な演出を生み出していました。

浜野 高宏



ディレクター 高倉 天地(テムジン)、氷 流(テムジン)、田中 我路(テムジン)
プロデューサー 寺岡 環(NHKエンタープライズ)
制作統括 加藤 善正(NHK)、齊藤 倫雄(NHKエデュケーショナル)、鐘川 崇仁(テムジン)

総務大臣賞 ノミネート作品

● ドキュメンタリー部門 ●

はるかなる古代文明 AIで謎に迫る！ナスカの地上絵
アマゾンラテルナ、NHKエンタープライズ／NHK BSP4K、NHK BS

● 情報・バラエティ部門 ●

美の壺スペシャル 皇居
NHKエデュケーショナル、桜映画社／NHK BSP4K、NHK BS

サラメシ

テレビマンユニオン、NHKエデュケーショナル／NHK 総合

● ドラマ部門 ●

NHKスペシャル 創られた“真実” ディープフェイクの時代
パオネットワーク／NHK 総合

1995 ～地下鉄サリン事件30年 救命現場の声～
共同テレビジョン／フジテレビジョン

講評

COMMENTARY

総評 COMPREHENSIVE EVALUATION

創り手の未来を 考えるとき…



第41回ATP賞審査委員長
荻原 伸之

今回は、創り手が選ぶ…というATP賞の初心に“プロの”という言葉をつけて審査にあたりました。応募総数は新人賞も合わせ166作品。総尺200時間を超える視聴時間は、一人の創り手として至福の時でした。心より感謝を申し上げます。今年も秀作揃いのドキュメンタリー部門の中で、頭一つ抜きん出ていた最優秀作品は、良質な推理小説を読んでいるかの錯覚を感じました。最優秀を一つに絞り切れず議論百出、最後は作品を通して現場スタッフの知恵と汗と涙が見えたドラマ部門。一方、情報・バラエティ部門は、昨今のコンプライアンス重視・予算削減の影響を最も受けていると感じました。しかしその中で、さすがプロとしての企画力・挑戦魂が光る作品もありました。今年6月、長嶋茂雄氏が「記録よりも記憶に残る選手」としてその人生の幕を閉じました。人の記憶に残るために、“映像”の力は大きいと言っても過言ではありません。審査を通じて確信した事は、記憶を紡ぐ映像の創り手は、永久に不滅です。

部門講評 DIVISION REVIEW

● ドキュメンタリー部門 ●

放送100年を迎えた今期、2年前に78本あったエンタリー数が48本と、ここ15年で最も少ない年となりました。各局のドキュメンタリー枠の激減が、やはり一因でしょうか。そんな中、今年の応募作を見渡すと（これは自戒を強く込めて書くのですが）、演出が類型的に感じられる作品もある一方で、「ドキュメンタリーにおける新しい演出とは何か」「新しい時代に必要な、創り手の覚悟とは何か」——こうした問いに真摯に向き合い、知恵や想像力で現状に立ち向かおうとする作品の数々に、むしろ勇気をいただきました。改めて、放送人たちの“好奇心のレンジの広さ”には感嘆するばかりです。他部門を見ると、テレビ以外、ネット発の受賞作品も見られました。ドキュメンタリー部門でも、今後、世界に向けた新たな作品が現れることを大いに期待しています。

審査委員 合津 貴雄

● 情報・バラエティ部門 ●

映像作品は、リリースした日に光を浴び、視聴者と初めて対峙する。そして視聴率や再生回数という成績表をもらい、また次の作品に取り掛かる。だが、創り手はきっと「渾身の作品を、もっと多くの人に観てほしい」と思っているはずだ。ATP賞には、そんな思いが溢れている。応募作品すべてに、その気概を感じた。音楽、美食、恋愛、アート、冒険、最新技術、お笑い、トーク…。さまざまなジャンルの作品を鑑賞し、強く感じたのは、着想・企画性の重要性。時代の空気感を見抜き、題材を選んで企画を創ることが、いかに難しく、そして大切なことなのか。審査を通じて、改めて思い知らされた。才能あるクリエイターの作品を浴びるたび、感嘆と嫉妬の心が燃え上がる。この賞を通じて、さらに多くの人に「作品たち」が届くことを願う審査だった。

審査委員 大澤 宏一郎

● ドラマ部門 ●

愛すべきキャラクターをいかに作れるか——。ドラマ作りにおいて大事なことを、あらためて思い出させてくれた審査委員会でした。最優秀賞の「クラスメイトの女子、全員好きでした」の枝松くん、「東京サラダボウル」の鴻田さん、「母の待つ里」のお母さん。どの人物も魅力的で、次に何を言うのか、何をするのか、目が離せませんでした。原作がある作品でも、登場人物を実写として魅力的に具現化するのとは容易ではありません。同じ制作者だからこそ、敬意を込めて選ばせていただきました。というより、単純に面白く、そして感動したからです。もちろん、他の作品にも魅力的な登場人物は数多く登場しました。世知辛い今の時代だからこそ、ユーモアも大切だと感じています。ドラマとは、いかに“人間”を描くか。そして、その人物が心に残るか。刺激的なものが求められがちな昨今ですが、だからこそドラマ制作者は、大切なことを見失ってはいけない——あらためて、そう感じました。

審査委員 井上 竜太

メディアの時代の 変わり目で

時代を見抜く 企画の難しさと 大切さ

人物描写の 原点を再認識

確かな実力、広がる可能性

新人賞審査委員長
山本 妙



今年は、新人賞に29作品の応募がありました。“新人の作品”とは思えないレベルのドキュメンタリーや、テレビの枠を越えて配信で成功を収めたもの、さらにはドラマから映画化まで一つのプロジェクトとして展開した作品など、粒揃いの良作が揃ってありました。審査員一同、新人たちの確かな実力を感じながら、ポジティブな議論を重ね、優秀賞4作品、奨励賞4作品を選出いたしました。耳目を集めるための誇大表現や、事実の裏付けのない“一人称”の発信がまかり通る時代。そうした中で、テレビが守ってきた

情報の正確性、公正中立性、新たな価値観の提示といった価値を、きちんと受け継いでくれている若者たちに、大きな希望を感じました。取材困難な地域に入り、丁寧な取材を積み重ねた作品。社会の片隅に生きる人をチャーミングに描いた作品。オリジナル作品で勝負し、日本のみならずアジアでも多くの若者の心をつかんだドラマ。思い返しても、胸躍る作品ばかりです。これからのご活躍を祈願し、新人賞を贈ります。

総務大臣賞総評 MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD REVIEW

世界に響く個性と力強さ

総務大臣賞審査委員長
浜野 高宏



今回の総務大臣賞は、ドラマ・ドキュメンタリー・情報バラエティの候補作6作品が選考対象となりました。審査では、海外テレビ市場や国際的なストリーミングでの展開可能性、さらには国際映画祭で評価を得られるかといった観点から、幅広い議論が交わされました。当然、意見は割れ、審査は白熱しました。その中で選ばれたのが、「臨界世界－ON THE EDGE－中国のハゲタカたち」です。通常は撮影不可能なプライベート空間での映像収録を実施し、登場人物の会話を最大限に活用して、映像と音声で見せ続けたことが、作品全体に緊張感を与える個性的な演出につながっていました。

また、海外へアピールする強さと個性を兼ね備えていたことが、選考の決め手となりました。他の候補作も、丁寧な取材が光った「AIで謎に迫る！ナスカの地上絵」、貴重な世界を記録した「美の壺スペシャル 皇居」、日本を支える市井の人々が主人公の「サラメシ」、目の前に迫る恐ろしい時代をドキュドラマで描いた「創られた“真実” ディープフェイクの時代」、人々を震撼させた事件を、未公開音声をもとにドラマ化した「1995～地下鉄サリン事件30年 救命現場の声～」。どれも魅力的な作品群であったことを、ここに記しておきます。

